ゴムタイムス

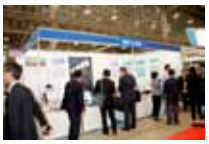
IPF Japan2017
国際プラスチックフェア

～新たな価値をプラスする材料・機械・技術の展示会～

展示会レポート

2017年10月24日（火）～10月28日（土）

5　**墨東ゴム工業会**
情報発信力強化で会員発展へ



6　**ホッティーポリマー**
ＨＰスポンジや開発品を訴求

7　**モリテック**
新製品「ＬＥＡＫＢＬＯＫ」初披露

8　**角一化成**
加飾技術「デコプラス」を来場者にＰＲ

9　**昭和ゴム**
「はた楽マット」など特色ある製品を紹介

10　**三葉製作所**
ＲＭＲ付ギヤーポンプなどを展示

11　**日本スピンドル製造**
新型機「フィーダールーダー」などを出品

12　**岡安ゴム**
「タフロング」で新たな用途展開探る

13　**アイティーエス ジャパン**
「イプレクサ」など最先端機器を出品

14　**レオ・ラボ**
卓上型混練機など各種試験機をアピール

15　**旭化成**
成形機用洗浄剤「アサクリーン」を展示

16　**イノアックコーポレーション**
分野、機能別に高機能素材、材料を提案

17　**ケー・ブラッシュ商会**
「マイクロジェット」実演で特長をＰＲ

18　**ダイハン**
新製品「自動調芯ヘッド」初披露

19　**高分子計器**
「ＴＤ－１０００」「Ｐ２シリーズ」をメインに展示

20　**エムアンドケー**
各種ゴム・エラストマー用試験機をＰＲ

21　**三友工業**
成型ラインの自動化をコーディネート

22　**日本ゼオン**
「ゼオネックス」「ゼオノア」を出品

23　**テクノプレニードヒダ**
化学的ＭＢ「プレニード」を中心に出品

24　**ホーライ**
ＰＥＴボトル圧縮減容機など各種機械ＰＲ

IPF Japan 2017（国際プラスチックフェア）

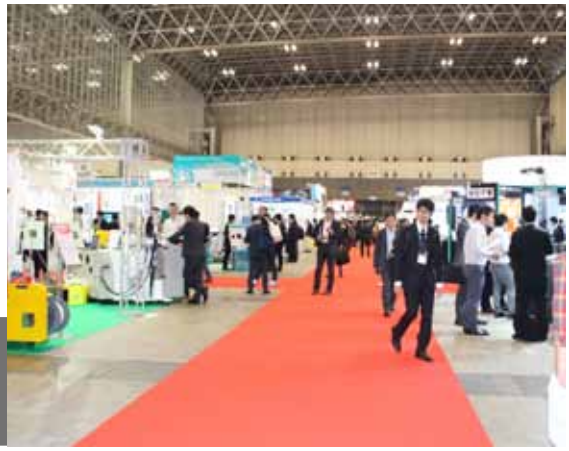
高機能・技術力の高さ訴求

生産性向上やコスト削減を提案

３年に１度開かれるアジア最大規模のゴム・プラスチックの総合展「国際プラスチックフェア（ＩＰＦジャパン２０１７」が10月24日～28日の５日間、千葉の幕張メッセで開催された。９回目を迎えた今回は７７８社・団体が出展。海外からの来場者も多く、４万３６７６人を集めた同展は盛況のうちに閉幕した。

ＩＰＦは「プラスチック＆ゴム試作・加工・製造受託展」「プラスチック成形機・成型関連システム展」「ゴム原料・成型システム展」など９つの展示会で構成される、プラスチック・ゴムの成形に関する「専門展示会の集合体」である。

今回のテーマは「プラスチック・ゴムからの提案　素材間競争に勝つ！」で、各企業が新機種や新技術をＰＲした。本紙では機械・試験機メーカーや成形・加工メーカーを中心に紹介する。



IPF Japan 2017 国際プラスチックフェア 公式サイト:
http://www.ipfjapan.jp/

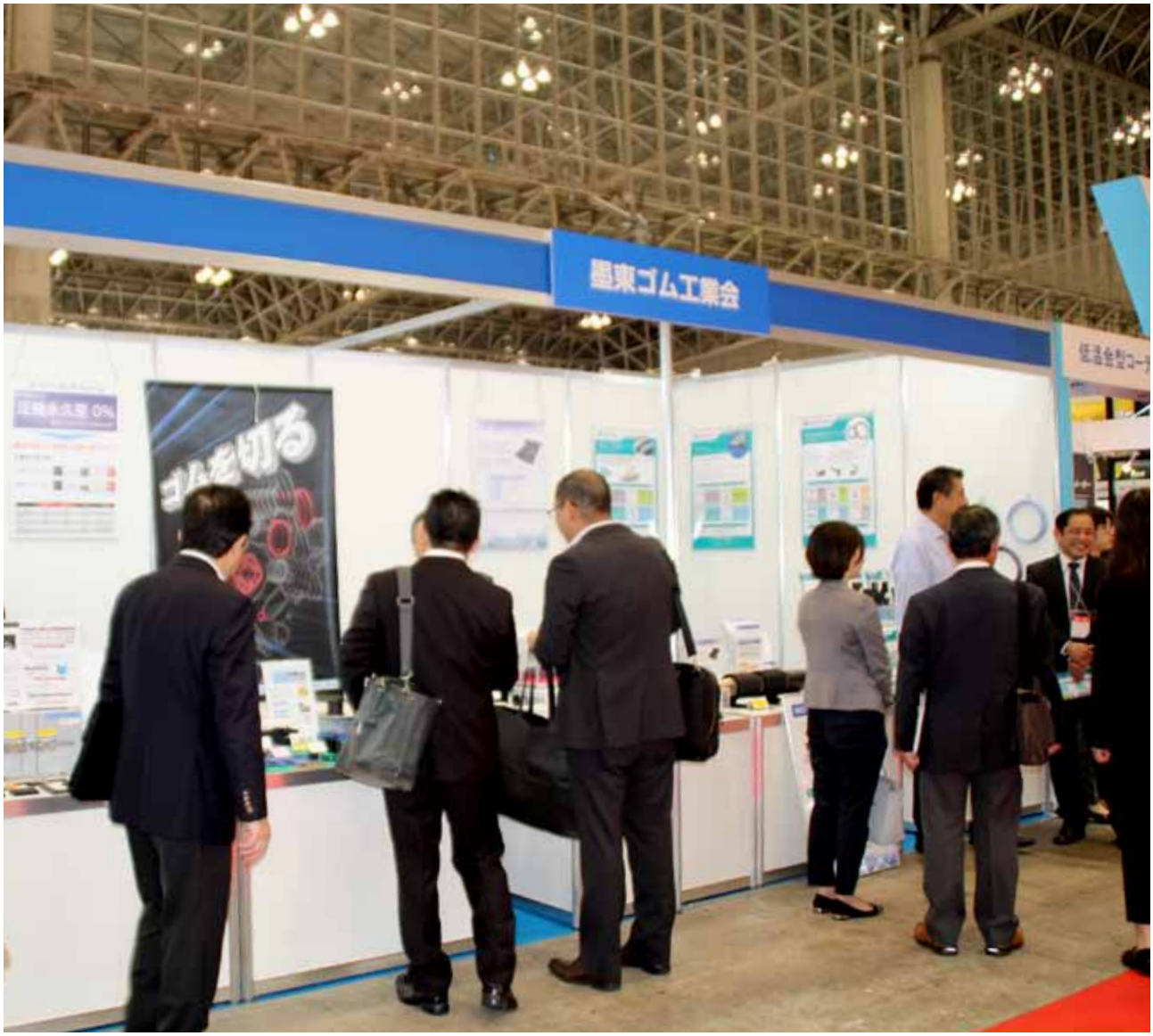
名　称	IPF Japan 2017 (国際プラスチックフェア)
会　期	2017年10月24日（火）～10月28日（土）
会　場	幕張メッセ
入 場 料	インターネットによる事前登録者、招待券持参者は無料 会場での当日登録は登録手数料として 1,000 円 （消費税込、 5 日間有効）
主　催	国際プラスチックフェア協議会
開催周期	３年に１回
来場者数	10月24日(火) 6,751名、10月25日(水) 8,468名、10月26日(木) 9,923名 10月27日(金) 11,745名、10月28日(土) 6,789名、5日間合計：43,676名

情報発信力強化で会員発展へ

墨東ゴム工業会

右川ゴム製造所、オーディオゴム・テクニカル、金星ゴム工業、霜田ゴム工業、ホッティーポリマーの会員企業５社が出展し、主要製品や技術を紹介した。

墨東ゴム工業会の堀田秀敏会長は「当会は様々な親睦行事を通じ、それぞれの会員企業の技術向上や健全な発展に力を注いでいる。また、会員企業はそれぞれ得意とする製品や技術を持っており、ＩＰＦではこうした製品や技術を紹介している。ＩＰＦへは初出展になるが、今後も会員各社の製品や技術を発信するような機会を増やし、会員企業の発展につなげていきたい」と述べた。



http://bokuto-rubber.com/

ＨＰスポンジや開発品を訴求

ホッティーポリマー

「ホットな技術・情報で、最適なソリューション」をテーマに、ＥＲスポンジと同等の性能を持った特殊樹脂発泡品のＨＰスポンジや開発中の新製品などを来場者に訴求した。

ＨＰスポンジは、エラストマーを同社独自の配合技術で特殊発泡させたもの。用途は幅広く多岐にわたるが、今までの樹脂発泡のへたりが軽減されることで建築材料などに適しているという。

また、独自配合で製作した３Ｄプリンター（ＦＤＭ）用フレキシブルフィラメント「ＨＰフィラメント」の成形実演などを行った。

http://www.hotty.co.jp/

新製品「ＬＥＡＫＢＬＯＫ」初披露

モリテック

同社が強みとする「金型なしでゴム加工品を１個から製作」をブース全面でＰＲしたほか、新製品「ＬＥＡＫＢＬＯＫ」も初披露した。

ＬＥＡＫＢＬＯＫは、同社の加工技術とノウハウを融合した環境対応ノンアスベストガスケット。特長は、トルエン等の有機溶剤を使用しておらず、環境対応品であることや、ガスケット交換時の取り外しが容易で、作業効率が良い。さらに、高気密性、低トルク、低変形性といった点も特長。ブースでは、ベーシックな「ＭＲ１００」と中高性能「ＭＲ２００」の２タイプを紹介していた。

http://www.moriteq.co.jp/

加飾技術「デコプラス」を来場者にＰＲ

角一化成

同社の３つの加飾技術「２色ｄｅ加飾」「ＫＡＬＭ工法」「その他の加飾技術」を総称する加飾技術「デコプラス」を紹介した。

加工性・生産性に優れるプラスチックは、様々な製品に使われているが、どちらかといえば安っぽく見られることが多い。そこで、デコプラスを使えばプラスチックの持つ良さを活かしつつ、外観をより美しく、高級感にあふれるものに変わるという。

「この加飾技術を始めたのは２～３年前から。これまでは自動車の内装材へ展開してきたが、今後は建材などインテリア用途へも提案していきたい」（同社）と述べていた。

https://www.kakuichikasei.co.jp/

「はた楽マット」など特色ある製品を紹介

昭和ゴム

新製品の電熱ゴムシート「ショーワアグリカルチャーマット」や立ち仕事用マット「はた楽マット」を始め、タンク等に内張りする「ゴムライニング」や大小さまざまな「ガスケット」などを紹介した。

はた楽マットは、安全性の高い材料であるＦＤＡ認定抗菌剤を練り込んだ合成ゴムを使用するゴムマット。表面、裏面に交差する半円状の凸部により足にかかる荷重を均等に分散することで、脚にかかる負担を軽減する。

同社は今年、全国各地で開催される展示会に数多く出展している。ＩＰＦへの出展は今回が初めてだが、様々な製品をＰＲする手段として、今後も展示会を活用していくという。

http://www.showa-rubber.co.jp/

RMR付ギヤーポンプなどを展示

三葉製作所

「RMR（ローリングミルロール）付ギヤーポンプ」「超臨界発泡押出装置」「自動束取結束機」などを紹介した。

ギヤーポンプは、２本のローリングミルロールを採用したことで、ゴム材料供給に押出機を使用しない。従来の押出機付ポンプと比較すると、省スペース・省エネ化が図られた他、低温押出や段替時間の大幅な短縮にもつながったという。

また、ブースでは同社が代理店販売するドイツやフランスの樹脂成形装置メーカーの製品についてパネルやサンプル展示を行った。

http://www.mitsuba-ss.co.jp/

新型機「フィーダールーダー」などを出品

日本スピンドル製造

18年ぶりの出展となった今回は、２０１６年に販売提携した三葉製作所と共同出展し、「フィーダールーダー（ＦＲＶ65Ａ型）」「混練監視機能付ニーダー」などを出品した。

フィーダールーダーは２軸テーバースクリューと１軸押出機のメリットを組み合わせた新型機。特長としては、従来機に比べ、多品種生産に対応できることや、ニーダー、ミキサー等の混練機から直に投入できる構造となっており、省エネ・無人化が図ることが可能だ。

http://www.spindle.co.jp/

「タフロング」で新たな用途展開探る

岡安ゴム

押出メーカーならではの独自製法により生まれた「タフロングＥＳ」を中心に紹介した。

タフロングは、低圧縮での優れたシール性、断熱性、クッション性などを特長とする長尺ＥＰＤＭゴムスポンジシート。ブースでは従来の黒色とともに、オレンジやグリーンなどカラーシートも出品した。「断熱材やシール材、緩衝材として使われてきたが、発色の良いカラーを用意し建材など新たな用途を探っていきたい」（同社）という。

キッチンマット「ふく楽マット」も紹介した。ふく楽マットは、連続押出成形によるスポンジシートの技術を活用し、タフロングを応用した商品で、表裏両面とも表面被覆構造になっており、水がしみこむことがなく、汚れも拭くだけで洗濯する必要がないといった点も特長である。

http://www.okayasu-rubber.co.jp/

「イプレクサ」など最先端機器を出品

アイティーエス ジャパン

ガボ社の動的粘弾性測定装置「イプレクサシリーズ」やブラベンダー社のポリマー用水分計「アクアトラックステーション」など、同社が輸入販売する実用的でユニークな機能を兼ね備える世界の最先端機器を出品した。

イプレクサシリーズは、高荷重性能、高精度測定を可能にするため、静的荷重はサーボモータ、動的荷重は新開発モーターと２つのドライブを使用している。

また、静的荷重、動的荷重ともそれぞれ専用のセンサーを用いて測定。これにより、分解能を高めている。また、測定を正確にするために徹底した共振対策を施していることも特長となっている。

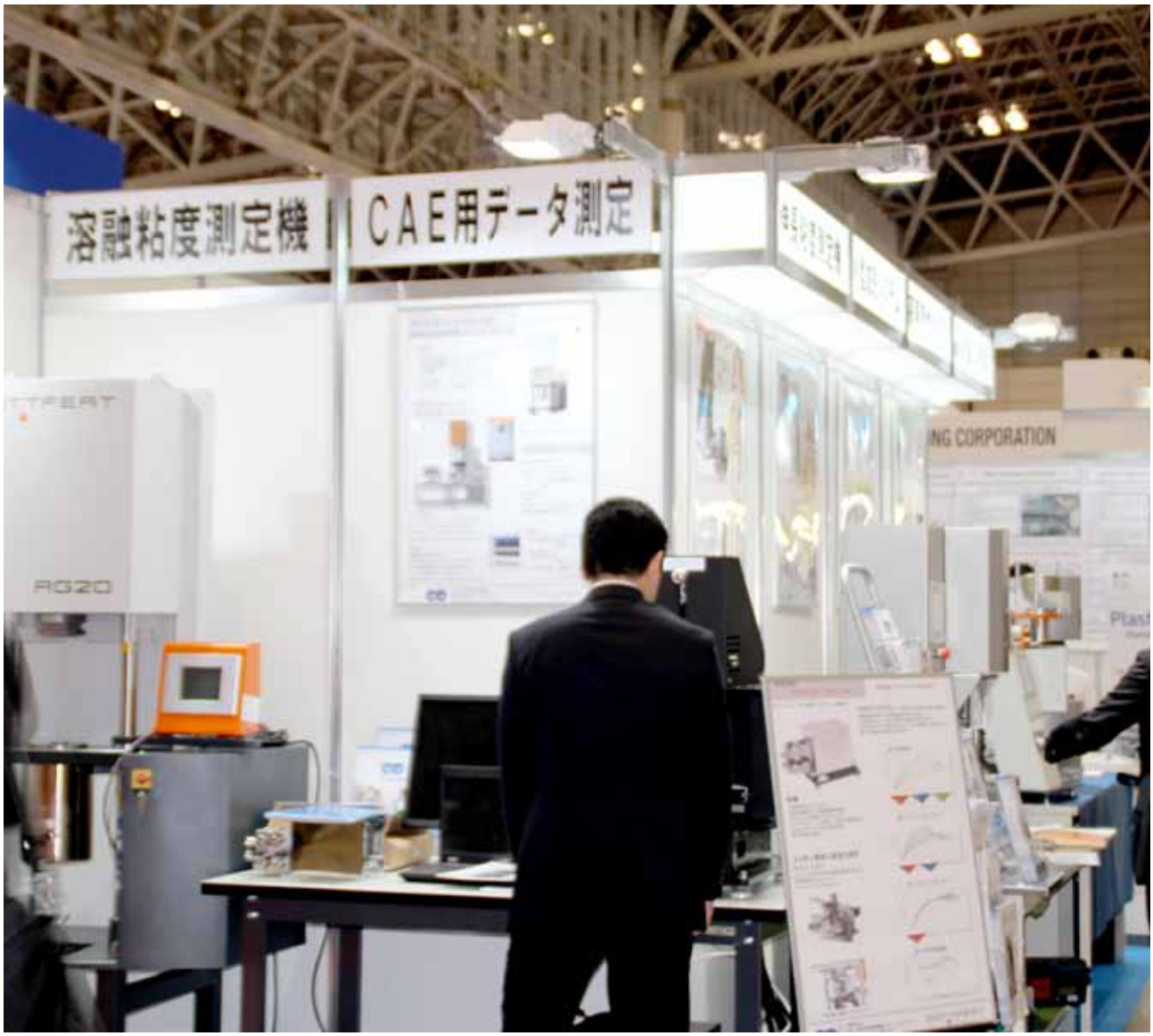
http://www.itsjp.co.jp/

卓上型混練機など各種試験機をアピール

レオ・ラボ

欧米試験機メーカーの輸入販売代理店となっている同社は、卓上型混練機やゴム用試験機、伸長レオメータなどの各種試験機を紹介した。

Ｘｐｌｏｒｅ社の卓上型混練機は、２ｍｌ～15ｍｌのサンプルで混練を行うことができるため、１日で数十種類のサンプルを混練できる。さらに、ＳＵＳブラシが使えるので、掃除時間の短縮やサンプル量を大幅に減らせるメリットがある。



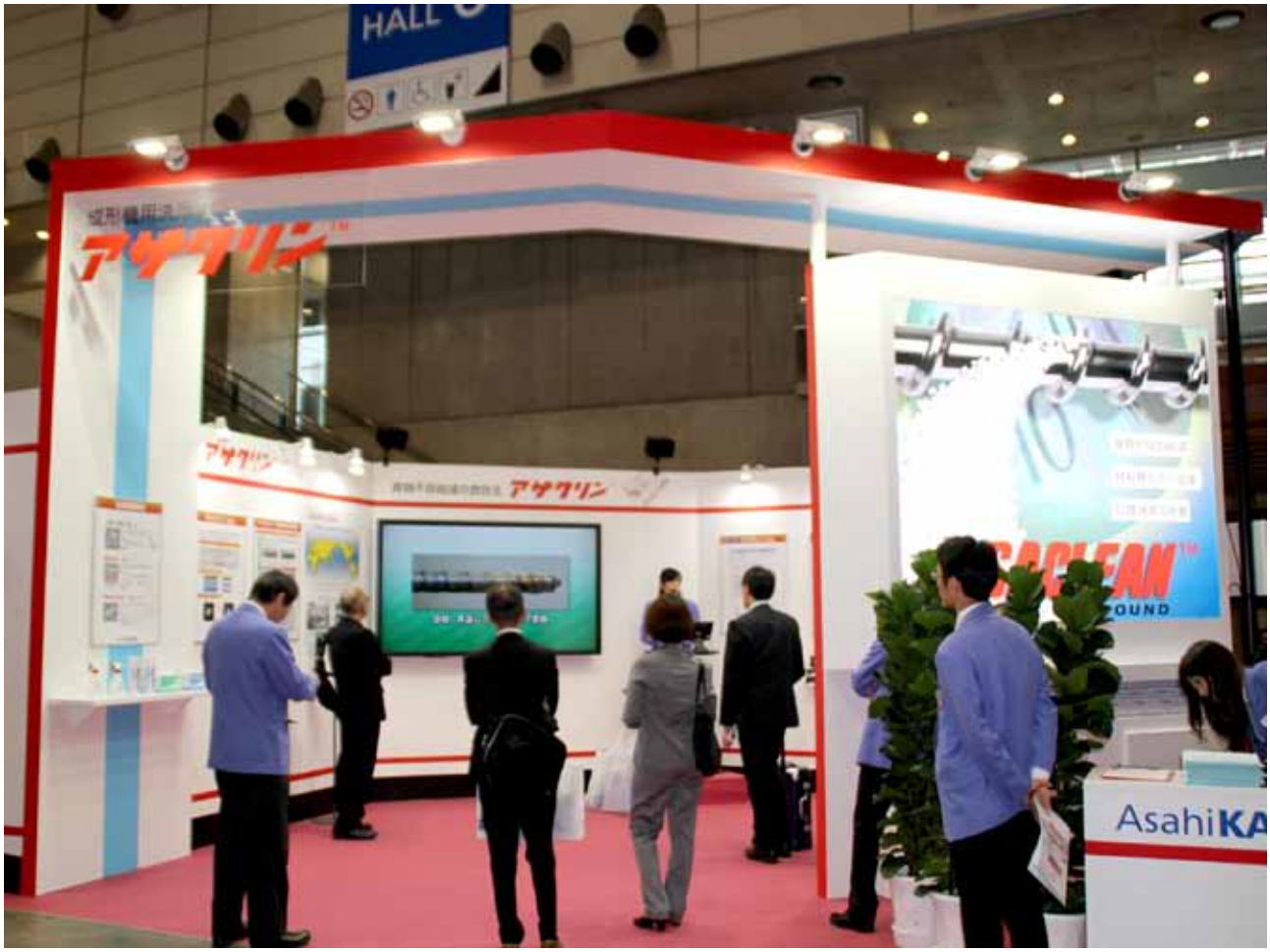
http://www.rheolabo.jp/

成形機用洗浄剤「アサクリーン」を展示

旭化成

プラスチック成形機用洗浄剤「アサクリーン」を紹介した。１９９０年の発売当初は、プラスチック成形機の色換え・樹脂換えを少量・短時間で効率的に行う商品であったが、２００８年に高機能グレードの開発したことで、樹脂劣化物の除去から予防に至るまでの幅広い効果の実現が可能となった。これにより、成形品の不良率低減が図られ、成形現場のロス低減や効率化に役立つ。

ブースでは説明員によるプレゼンに加え、パネルを使い、アサクリーンの特長や効果を来場者に訴求していた。



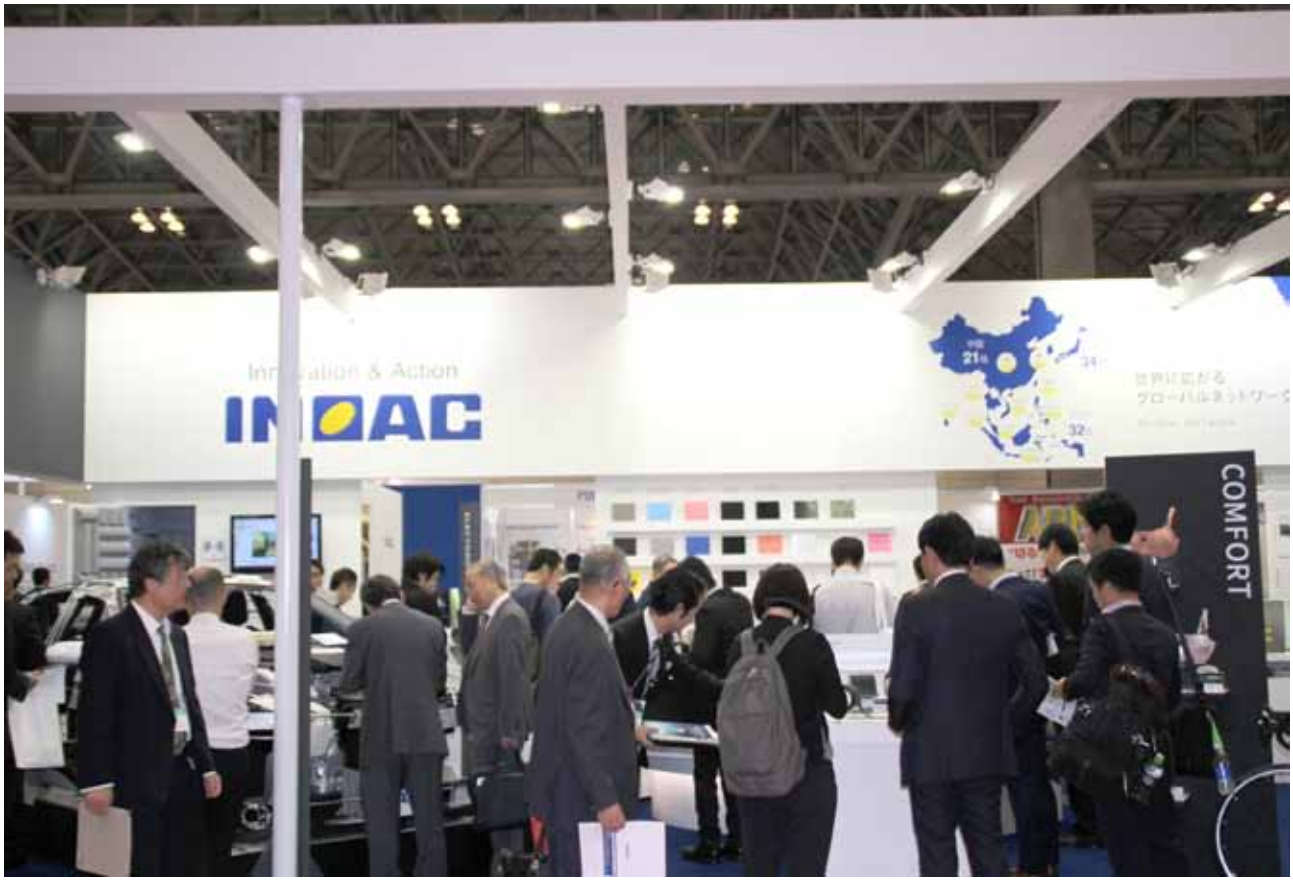
https://www.asahi-kasei.co.jp/

分野、機能別に高機能素材、材料を提案

イノアックコーポレーション

「泡から広がる快適な社会」をテーマに、同社のコンパウンド技術により創出される素材や技術を、自動車やＩＴ・情報機器、生活用品、スポーツなど「分野別」、そして「機能別」に分けて提案した。

また、ブースでは新技術で生み出された世界最薄フォーム「ＰｕｒｅＣｅｌｌ」や、導電・放熱機能を持った超微細セルフォーム「ＰｕｒｅＣｅｌｌＨＥＣシリーズ」の特別展示コーナも設置し、同社ならではの高機能な素材や材料をＰＲしていた。



https://www.inoac.co.jp/

「マイクロジェット」実演で特長をＰＲ

ケー・ブラッシュ商会

産業機械専門商社の同社は、仏ＲＥＰ（レップ）社の小型射出成型機を中心に紹介した。

小型射出成型機「Ｍｉｃｒｏｊｅｃｔ（マイクジェット）」は取り付け時間が約30分で簡単にセットアップができる６ｔの小型射出成型機。

特長は、設置面積が幅７５５㎜×長さ１２２０㎜で省スペース化を実現したこと。また、水も圧縮空気も必要なく、電源をつなぐだけで使用できる。インタフェースのタッチパネルは、射出成形機の一連工程をイラストで表記。これにより、操作性が良く、作業者の操作間違いが起きないように工夫した。展示期間中は、実際にマイクロジェットの実演を行い来場者に特長を訴求した。

https://www.kbrasch.co.jp/index.html

新製品「自動調芯ヘッド」初披露

ダイハン

「ゴム練機」「ゴム押出機」などゴム用機械をはじめ、新製品「自動調芯ヘッド」を初披露した。自動調芯ヘッドは、これまで職人技に頼っていた押出時のチューブ偏肉調整を自動化した。偏肉調整動作では、まずレザーセンサでニップルの位置を測定。運転中は押し出されたチューブの位置を測定し、サーボシリンダーにフィードバックをかけて自動調芯する仕組みとなっている。

さらに、既存設備への後付けも可能なため、顧客の使用環境に応じてオーダーメイドができる。ブースでは、自動調芯ヘッドを接続したゴム押出機を展示し、製品の特長を来場者にアピールしていた。

http://www.daihan-net.jp/

「ＴＤ－１０００」「Ｐ２シリーズ」をメインに展示

高分子計器

恒温槽付硬度測定システム「ＴＤ―１０００」や自動ゴム硬度計「Ｐ２シリーズ」をメインに展示した。

ＴＤ―１０００は、自動ゴム硬度計と恒温槽を一体化させた新しい硬度測定システム。従来は難しいとされてきた高温・低温環境下におけるゴム硬さ測定を安定して行えるよう、高精度で測定、恒温槽内の温度変化を伴わない新方式の測定機構を採用した。

Ｐ２シリーズは高精度センサを用いた自動ゴム硬度計。センサは交換することで、ＪＩＳやＩＳＯなど各規格に準拠した硬さの測定に対応できる。また、機器の駆動部と制御部が分離しており、他の装置への組み込みも可能である。

http://www.asker.co.jp/

各種ゴム・エラストマー用試験機をＰＲ

エムアンドケー

最近マイナーチェンジしたローターレスタイプのゴム用加硫試験機「キュアベース」を始め、フィラー分散評価試験機「ＤＣＦ５０Ａ」などゴム・エラストマー用試験機を展示した。

キュアベースは、世界中で多く使われている密閉型円すいの中でも、先進の密閉形円すいダイ方式を採用し、主要規格のＪＩＳ、ＩＳＯ等に準拠して作られている、また、操作性を重視することにより使いやすい上、低価格も実現している。

http://www.mandk.info/

成型ラインの自動化をコーディネート

三友工業

国内外で圧倒的な販売台数を誇るゴム射出機「ＳＴＩシリーズ」をメインに出品した。このうち、ＳＴＩのＶＪタイプは、高効率、省エネ、静音、低価格を特長とする次世代射出成形機となっている。具体的には、押出機部分には新チェック弁を採用し、チャージ時間を20％短縮、射出部には新形状プランジャー採用によりゴム漏れを20％低減させた。

これら機械単体だけでなく、付帯設備を成型ラインの自動化をトータルコーディネートできる点もＰＲ。説明員によれば、一昨年あたりからこの取り組みを始めたが、顧客の反応も上々という。

http://www.sanyu-group.com/industry/

「ゼオネックス」「ゼオノア」を出品

日本ゼオン

同社が世界に誇る熱可塑性樹脂（シクロオレフィンポリマー）の「ゼオネックス」「ゼオノア」を出品した。

ゼオネックスは低吸水性、光線透過率、低比重などに優れた光学特性を生かし、カメラ用の光学部品や医療用樹脂に採用実績がある。ゼオネックスでは開発品「Ｔ６２Ｒ」を展示。従来品と比べ熱変形しにくく、色調の変化も小さく、高温環境で使われる高耐熱光学レンズ用の新グレードである。

また、ゼオノアも比重、吸水率、光線透過率など優れた特性を持ち、用途も光学部品、電子部品、自動車部品など多種多様である。さらに、成形性にも優れ、射出成形以外にブロー成形・押出成形にも適している。

http://www.zeon.co.jp/

化学的ＭＢ「プレニード」を中心に出品

テクノプレニードヒダ

昨年８月にタイで設立した「Ａ．Ｆ．ＰＲＥＫＮＥＡＤ　ＣＯ．，ＬＴＤ」の名で、化学的マスターバッチ（ＭＢ）「Ａ．Ｆ．ＰＲＥＫＮＥＡＤ」を中心に出品した。

プレニードはゴム薬品とバインダーをペレット状、またはシート状にマスターバッチ化したもの。特長は、粉末状の薬品と比べると分散性が高く、ミキシング時間の短縮や製品品質の向上などトータルコストの削減につながる。

また、三酸化アンチモンＭＢは合成樹脂等に添加される難燃助剤。現在は上海とタイの工場で生産体制を整え、今年から販売強化に乗り出しているとのことだ。

http://www.preknead.co.jp/

ＰＥＴボトル圧縮減容機など各種機械ＰＲ

ホーライ

ＰＥＴボトル圧縮減容機「ＨＳＰ―２０５型」や粉砕機「ＸＨ３０６０－50Ｅ」を中心に、各種機械をＰＲした。

ＨＳＰは刃物を使用せず、ＰＥＴボトルを押しつぶして減容する減容機。通常の減容器よりも小型のため、スーパーやボトルメーカーのバッグヤードに設置できる。スーパーなどで回収されるペットボトルが現場であふれ場所の確保に困っているユーザーのニーズに応えるようと、約１年間かけて販売にこぎつけた製品である。

http://www.horai-web.com/